



プレスリリース

古九谷展

2015年7月4日(土)～9月23日(水・祝)



画像① 色絵 牡丹双蝶文 皿



TOGURI MUSEUM OF ART

戸栗美術館



広報用写真

※以下の展示予定作品の写真データ等をご用意しております。ご掲載の際は注意事項をご覧の上、別紙写真借用申請書をお送り下さい。



画像② 色絵 瓜文 皿
伊万里（古九谷様式）
江戸時代（17世紀中期） 口径 44.5cm
戸栗美術館所蔵



画像③ 色絵 牡丹雪輪文 皿
伊万里（古九谷様式）
江戸時代（17世紀中期） 口径 33.7 cm
戸栗美術館所蔵



画像④ 色絵 丸松竹梅文 蓋付碗
伊万里（古九谷様式）
江戸時代（17世紀中期） 通高 7.5 cm
戸栗美術館所蔵



画像⑤ 色絵 花果文 面取壺
伊万里
江戸時代（17世紀中期） 高 23.5cm
戸栗美術館所蔵

■（表紙）画像① **色絵 牡丹双蝶文 皿** 伊万里（古九谷様式）

江戸時代（17 世紀中期） 高 4.7cm 口径 35.2cm 高台径 19.3cm

大輪の牡丹の花と、2 匹の蝶を鮮やかな色彩で描いた大皿。蝶の羽の模様や、牡丹の花弁と葉の筋まで精緻にあらわしている。主題を大きく大胆に配した構図、上絵の緑・紫・青・黄・赤を用いた鮮やかな色遣いなどの特徴から古九谷様式の典型作と言える。

■画像② **色絵 瓜文 皿** 伊万里（古九谷様式）

江戸時代（17 世紀中期） 高 9.6cm 口径 44.5cm 高台径 19.9cm

見込に濃厚な上絵の青と緑で大振りの瓜を描いた大皿。腰に段をつけた形で^{つばぶち}鐺縁とし、^{くちさび}口錆を施す。瓜文の周りは細かな丸文と雪輪のような文様を描き埋め、黄彩で塗りつぶし地文様とする。周囲は流水文で囲み、濃厚な緑彩を重ねる。

■画像③ **色絵 牡丹雪輪文 皿** 伊万里（古九谷様式）

江戸時代（17 世紀中期） 高 7.6 cm 口径 33.7 cm 高台径 17.7 cm

見込に牡丹を描き、周囲に雪輪を散らした大皿。大きく段をつけた形に、外反した広縁がつく。見込は丸文に緑彩、広縁は葉文に黄彩を重ねて地文様とする。本作の特徴とも言える白抜きの雪輪文は、濃厚な色彩の中で効果的なアクセントとなっている。

■画像④ **色絵 丸松竹梅文 蓋付碗** 伊万里（古九谷様式）

江戸時代（17 世紀中期） 通高 7.5 cm 口径 10.4 cm 高台径 4.0 cm

胴と蓋に丸文を配した中に、松竹梅や銀杏の葉を描いた蓋付きの碗。蓋付碗は初期伊万里には見られず、17 世紀中期からつくられるようになる。丸文などの幾何学文様を多用した意匠は、中国陶磁の影響によるものである。5 客で伝世。

■画像⑤ **色絵 花果文 面取壺** 伊万里

江戸時代（17 世紀中期） 高 23.5cm 口径 9.6cm 高台径 10.4cm

軽く端反りにした口縁から高台の裾まで、穏やかな曲線で包まれた珍しい形の壺。四方に設けた窓内に柘榴や桃などの花果文を描き、周囲を葡萄文で埋める。古九谷様式らしい鮮やかな色遣いが見られるものの、縁と高台部分に見られる濃厚な赤を多用した表現は次代の初期輸出タイプの特徴である。

以上を含む、約 80 点を展示予定。



展覧会概要

江戸時代、17世紀初頭に佐賀・有田において誕生した伊万里焼。草創期には青色で文様を描く染付が大半を占めましたが、1640年代頃には、赤・黄・緑・紫などの上絵顔料が新たに導入され、色彩豊かな色絵製品が生み出されました。これらの初期色絵を「古九谷様式」と呼びます。

古九谷様式には、実に様々な作風が見られます。中国磁器の幾何学文様を淡い色調で模したものの、中国絵画の画題を鮮やかな色調で描いたもの、また、小袖や屏風絵を思わせる意匠を濃い色調であらわしたものなど。中でも目をひくのは、濃厚な色彩を用いた大皿の存在です（右下図）。古九谷様式の大皿は、大胆な文様構成と色遣い、密に描きこまれた縁文様や地文様など、それぞれに異彩を放ち、観るものを圧倒する存在感があります。

古九谷様式と同時代には、色絵以外に染付・さびゆう るりゆう 錆釉・瑠璃釉などの製品も多数つくられました。それらの丁寧な作行を見ると、17世紀中期は色絵の導入だけでなく、成形や焼成技術においても格段の進歩がみられる技術革新の時代であったことがうかがえます。

今展は、古九谷様式の色絵大皿を中心とした名品、同時代の伊万里焼をあわせて約80点展示。色絵の誕生と技術革新の中で生み出された、17世紀中期の多様な表現をご紹介します。



色絵 葡萄鳥文 輪花皿
伊万里（古九谷様式）

江戸時代（17世紀中期） 口径 34.5 cm



展示詳細

■古九谷様式の特徴

古九谷様式の優品を例にあげ、代表的な3タイプの特徴をご紹介します。

- A. 幾何学文様と吉祥文を組み合わせるタイプ。染付の青、上絵の赤・黄・緑を用いた淡い色調。中国・明代末期、景德鎮窯の「色絵祥瑞」と呼ばれるタイプを模したと考えられている。
- B. 余白を残した構図で絵画的な意匠を描くタイプ。上絵の赤・黄・緑・青・紫・黒を用いた鮮やかな色調。中国・明代後期の「はっしゅがふ八種画譜」などから意匠を採り入れたとされる。

C. 主文様を大胆に大きく配し、濃厚な緑・黄・青を基調としたタイプ。黒の地文様を伴い、紫が加わる場合もある。意匠や色遣いには、中国・明代末期の景德鎮窯製の色絵や、同時代の小袖・屏風絵などの影響が指摘されている。



A. 色絵 牡丹文 松皮菱形皿 伊万里（古九谷様式）
江戸時代（17世紀中期） 口径 29.2×18.5 cm

C. 画像② 色絵 瓜文 皿 伊万里（古九谷様式）
江戸時代（17世紀中期） 口径 44.5cm



B. 画像① 色絵 牡丹双蝶文 皿
伊万里（古九谷様式）
江戸時代（17世紀中期） 口径 35.2cm

■ 同時代の多様な技法 - 染付・錆・瑠璃・金銀彩 -

17世紀中期には、色絵以外にも多様な装飾技法が用いられています。草創期より主流であった染付は引き続き多用されますが、色調は鮮やかに、筆致はより繊細な表現となりました。また、錆釉や瑠璃釉は1つのうつわの中で細かく掛け分けが行われるなど（右図）、趣向を凝らした装飾に用いられています。1650年～60年頃には金や銀による装飾も加わり、伊万里焼はさらに製品の幅を広げることとなりました。



青磁瑠璃錆釉 鷺龍文 三足皿 伊万里
江戸時代（17世紀中期） 口径 24.0 cm

※なお、概要の要約が必要な場合は以下の文章をご参照ください。

■ 28 word

色絵大皿を中心とした古九谷様式の伊万里焼約 80 点を紹介。

■ 93 word

江戸時代、17 世紀中期より伊万里焼において色絵製品の製造が始まる。この頃につくられた色絵大皿を中心とする色彩豊かな名品を約 80 点展示。古九谷様式と呼ばれる伊万里焼の多様な表現を紹介する。



展示解説

展示期間中、第 2 週・第 4 週の水曜日と土曜日に、当館学芸員による展示解説を行います。予約は不要です。入館券をお求めの上、ご自由にご参加ください。

■第 2・第 4 水曜 午後 2 時～ (7 月 8 日・22 日、8 月 12・26 日、9 月 9・23 日)

■第 2・第 4 土曜 午前 11 時～ (7 月 11・25 日、8 月 8・22 日、9 月 12 日)

※各回、約 40 分～50 分ほどの解説になります。

※団体でご来館のお客様への展示解説も承っております。電話 (03-3465-0070) による事前予約制。

お気軽にご連絡くださいませ。



外国語展示解説 (英語)

展示期間中、外国語の展示解説を行ないます。

詳しくは、当館ホームページをご覧ください。



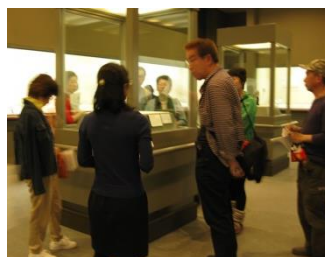
夏休み特別企画 やきものの展示解説 入門編

陶器と磁器の違いといった初歩から始め、伊万里焼の歴史などを陶片を触りながら学んだ後、「古九谷展」をご案内致します。初心者の方も楽しみいただける入門編の解説になります。予約不要。入館券をお求めの上、ご自由にご参加ください。

■8 月 4 日 (火) ～8 月 9 日 (日) 毎日午後 2 時～ (所要時間約 60 分)

☆参加者には「古九谷展」の見どころをまとめたリーフレットをプレゼント

< 昨年の様子 >





戸栗美術館 概要

戸栗美術館は、創設者・戸栗亨が長年に渡り蒐集した陶磁器を中心とする美術品を永久的に保存し、広く公開することを目的として、1987年11月に、旧鍋島藩屋敷跡にあたる渋谷区松濤の地に開館しました。コレクションは伊万里、鍋島などの肥前磁器および、中国・朝鮮などの東洋陶磁が主体となっており、日本でも数少ない陶磁器専門の美術館として活動しています。



会場 : 戸栗美術館

開館時間 : 10:00~17:00 (入館受付は16:30まで)

休館日 : 月曜日

※7月20日は開館、翌21日は休館、9月21日~23日は開館。

入館料 : 一般1,000円/高大生700円/小中生400円(団体20名様以上で200円割引)

交通 : 渋谷駅ハチ公口より徒歩15分/京王井の頭線 神泉駅北口より徒歩10分

※当館には駐車場・駐輪場はございません。

■Youtube 戸栗美術館チャンネル

<http://www.youtube.com/channel/UCGsnhei61hDkvDQlftWy9ZA>

■次回展示予定

10月6日(火)~12月23日(水・祝)

『柿右衛門・古伊万里金襴手展』



■展覧会に関するお問い合わせ

公益財団法人戸栗美術館

広報担当

〒150-0046 東京都渋谷区松濤 1-11-3

TEL : 03-3465-0070 FAX : 03-3467-9813

URL : <http://www.toguri-museum.or.jp/>

E-mail : kouhou@toguri-museum.or.jp



アートサークルのご案内

陶磁器に親しみ、美術館をより楽しんでいただくために、会員制のアートサークルを設けております。1年間何回でもご入館いただける他、さまざまな特典もご用意しております。

年会費 ￥5,000（税込）／ 発行から1年間有効

※有効期限内のご更新は、4,500円です。

（期限を過ぎてのご更新は新規ご入会と同じく5,000円となります）

- 特典①** 入会から1年間、何回でもご入館いただけます。
- 特典②** ご入会時に戸栗美術館オリジナルグッズをプレゼント。
（はがき5枚、A5クリアファイルのどちらかをお選びいただけます）
- 特典③** 年末に当館オリジナルカレンダーをお送りいたします。
- 特典④** 展示ごとに陶磁器の専門家による特別展示解説にご参加いただけます。
開催日時は会報でお知らせします。
（所要時間約1時間、要予約・定員制・先着順）
- 特典⑤** 会員様を含めた3名以上の団体様は、学芸員による展示解説〈ミニツアー〉を受ける事ができます。（随時予約受付、所要時間約30分）
- 特典⑥** 各展示に1回月曜休館日に開催される特別講座にご参加いただけます。
開催日時は会報でお知らせします。
（参加費1500円、所要時間約3時間半、要予約・定員制・先着順）
- 特典⑦** 企画展ごとに会報「戸栗美術館だより」、招待券2枚、展示ご案内チラシをお届けいたします。
- 特典⑧** ミュージアムグッズを価格の1割引きでご購入いただけます。
（一部除外品あり）